

## 「知ってトクするプチ“認識論”講座」の実施と効果 ー 川崎市立看護短期大学「夜間サテライト」教育セミナーの取り組みー

吉村恵美子<sup>1)</sup> 植垣一彦<sup>1)</sup>

### 要 旨

本学では川崎市内の看護職等の学習ニーズに応えるため、生涯教育の一環として教育プログラムを開発し、「夜間サテライト」教育セミナーを平成19年度から開始している。今回「知ってトクするプチ“認識論”講座」を実施した。その結果、19名の参加があり、受講者に対しアンケートを実施した結果15名から回答を得、①ニーズに合っている②知識・スキルが習得できた③リラックスできた④これからに活かせる、の項目に対して、いずれも高い評価を得ることができた。本サテライトのコンセプトである①気軽に参加できる、②元気になる、③刺激を受けあうと言う点においても毎回の感想や最後のアンケートによせられた感想から、達成できていると考えられる。また、本学のプログラムは開始当初より、看護などの専門性や必要な学習を補強、補充していくことを第一義とせず、講師と受講者、受講者同士、また職域を超えた交流を通して、共に学びの場を作り出し学びあえる環境を提供することを目的としてきており、今回もそのような環境を提供できたと考えられる。そこで、研修実施過程と受講者の学びの実態について報告する。

キーワード：生涯教育、夜間サテライト、認識論、社会貢献

### はじめに

本学では川崎市内の看護職等の学習ニーズに応えるため、生涯教育の一環として教育プログラムを開発し、「夜間サテライト」を平成19年度から開始している<sup>1) 2) 3) 4)</sup>。今回平成22年度で4年目を迎えた。本学のプログラムは開始当初より、看護などの専門性や必要な学習を補強や補充していくことを第一義とせず、講師と受講者、受講者同士、また職域を超えた交流を通して、共に学びの場を作り出し学びあえる環境を提供することを目的としている。またコンセプトを①気軽に参加できる②元気になる③刺激を受けあうとし、演習を中心としたプログラムで構成し、今回も3コースのセミナーを実施した。その中で「知ってトクするプチ“認識論”講座」について、その取り組み、教育内容とアンケートの結果から得られた学びについて述べる。

### I 研究の目的

川崎市内を中心とした市民に対し「夜間サテライト」教育セミナーの一環として、「知ってトクするプチ“認識論”講座」を企画、実施した。講座内容と受講者の反応、感想、アンケート等からプログラムを評価し、生涯学習として果たした意味について考察する。

### II 研究方法

#### 1 教育セミナーのプログラムの企画

このセミナーは看護職を中心として、多くの市民の生涯学習支援の一環として、①気軽に参加できる②元気になる③刺激を受けあうというコンセプトで毎年実施している。また、本学教員（非常勤も含む）の専門性を活かしたプログラムとし、社会貢献とともに、本学を知ってもらおうという、広報としての意味合いも持たせている。双方向性の学びを提供できるように、その趣旨を尊重し3つのコースを企画した。募集人数は30名とした。

---

1) 川崎市立看護短期大学

## 1) セミナーの企画（7月）

セミナーの一つとして「知ってトクするプチ“認識論”」を企画した。

講座企画の意図：我々は日常あるいは、仕事の上で、自分の考えや思いを上手く伝えたり、表現できないことが多い。そこで人間の「認識」に焦点を当て、学術的な知識だけでなく日常の中で、あるいは仕事を通してその知識を活かし、自分の考えや思いを表現していけるようにしたいと考えた。本学の非常勤講師による「認識論」の講義と演習、本学教員との協働による「認識」が見える形にするという演習の合計4回を計画した。

## 2) 受講者募集（9月）

### 2 プログラムの実施

1) 平成22年10月7日～平成22年11月18日（計4回）

2) 実施時間：18時30分～20時30分

3) 場所：ミューザ川崎研修室

### 3 受講者へ感想およびアンケートの実施

1) 受講者に講義毎に感想の記入を依頼

2) 最終日にアンケートを実施（最終日に出席した受講者15名に留め置きで実施。アンケートの主な調査内容は以下の通りである。）

①現在の職場の主な職務と資格、年齢

②セミナーの満足度（①ニーズに合っていた、②知識が習得できた、③スキルが習得できた、④リラックスできた、⑤これから活かせるの5項目について、4大変そう思う、3そう思う、2どちらともいえない、1そう思わない、の4段階評価とした。その他意見や感想などを自由意見として記載してもらった。）

## Ⅲ 倫理的配慮

アンケートの回答は無記名とし、調査の目的、個人が特定されないよう統計的に処理することを文書に明記し、口頭で説明した。回答をもって同意とみなした。講座の内容、感想等を研究として発表することに対して、研修開始前に文書および口頭にて説明、同意を得ている。

## Ⅳ 研究結果

### 1 教育プログラムの内容（表1参照）

表1 テーマ：知ってトクする プチ“認識論”講座

回数	開講日	内 容	担 当
1	10月7日（木）	早わかり“認識”のカラクリ	植垣 一彦
2	10月21日（木）	“表象(イメージ)”のチカラ	植垣 一彦
3	11月4日（木）	方法としてのコトワザ	植垣 一彦
4	11月18日（木）	アイディア“グッズ”を作ろう	吉村恵美子

## 2 研修の実際と受講者の状況

1) 受講者数：19名

2) 職種：看護師、保健師、助産師、学生、看護管理者、介護士、元公務員等。

3) 年齢：20才代～60才代。

### 【第1回】 早わかり“認識”のカラクリ

参加者全員による簡単な自己紹介のあと、くつろいだ雰囲気の中で開講。まずは、なぜ認識論を学ぶのか、という話から始まった。教育や看護など、ある対象についての〈認識〉を他者に期待する仕事は、その前提として期待するこちら側に要求されるものがある。それは一言でいえば、人はどういうカラクリで認識を深めていくのか—を掌中にすること。つまり、認識発展の法則性を「教え」や「指導」の内部に繰り込むことによって、他者の〈認識〉の深まりも可能になる。認識論を学ぶ根拠をそう確認して、セミナーは本題に入ってしまった。要約的にいえばつぎようになる。

①認識には〈レベル〉がある、ということ。わたしたちは、認識という様態を、単層的なイメージでとらえがちだ。しかし、じつは認識には、一感覚的認識、二表象的認識、三概念的認識の三つのレベルがある。そして、「認識が深まる」という事態は、この三つの段階間のダイナミックな「のほりおり」、言いかえると、往還と反復活動が頭の中で実現されている状態なのだ。こうした認識発展の過程的構造を、庄司和晃<sup>5)</sup>は、「認識の三段階連関理論」として明らかにした。セミナーではこの理論がコンパクトに紹介された。レジュメとスライドで使用されたこの部分の資料をかかげておく（資料1）。

②「認識の三段階」を実感的になぞる方法として、「アリとは何か」という課題に取り組んだ。まず、じぶんがイメージする「アリ」の絵を用紙に描いた。すなわち、「二表象的認識」の表出である。いざ描くとなると、ちょこまかしたあの黒

い「アリ」はたしかに知っているはずなのに、からだはさてどうなっているか？ 足はさてどこから何本出ているか？ 触覚の折れ具合は？

目の位置は？ というように、じぶんの認識がかなり曖昧なことに気づき始める。その結果、会場のあちこちから、つぶやきや呻吟や笑いが起こって、セミナーは一気に盛り上がった。

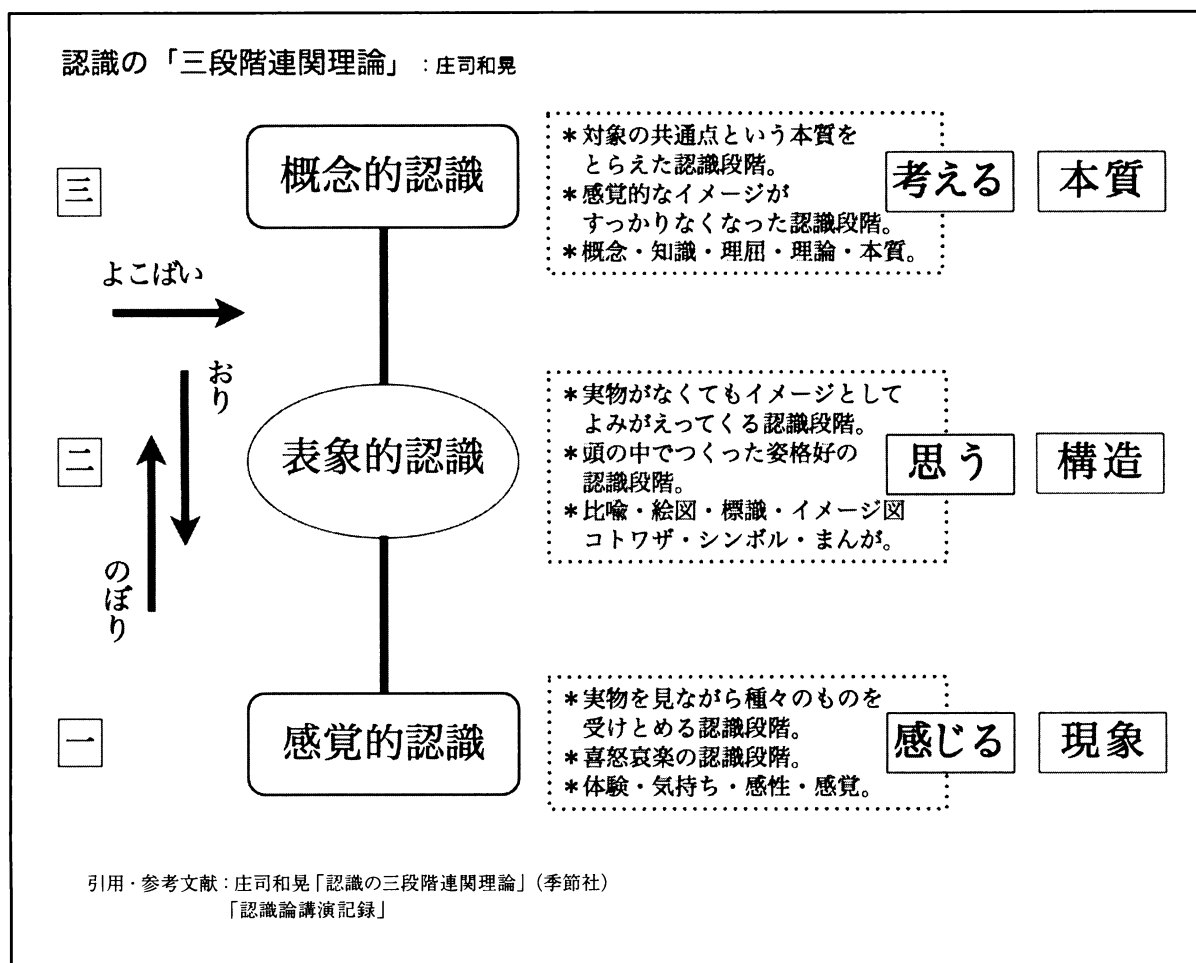
ここで、担当者は、「アリ」のからだの構造や生態について最少の知見を披露。すなわち、「三概念的認識」のレベルである。そしてさらに、シャーレで実際に飼育している「クロオオアリ」の「女王アリ」を提示。すなわち、「一感覚的認識」のレベルである。参加者は初めて見る体長2センチほどの大きな「女王アリ」に感動。「概念的認識」を豊かにしたあとの生きた「アリ」との対面は、日常のなかで何気なく見過ごすのと違って、意識的に観察する目になってい

く。こうして、感覚？表象？概念の「のほりおり」を通して、「アリとは何か」の認識がたしかに深まっていくことを実感した。

③認識の「のほりおり」は、わたしたちの日常生活のなかで、じつは無意識に実行されている。「つまり」「たとえば」「すなわち」ということば群が、それを可能ならしめているのだ。「つまり」は認識の「のほり」を、「たとえば」は「おり」を、「すなわち」は「横ばい」をそれぞれ促す、というように。さきの庄司和晃はこれらのことばを、「思考運転のキッカケ」になるという意味で、「キッカケことば」と総称する。肝心なことは、無意識にではなく、自覚的意識的に使いこなす、ということだ。

そこで参加者は、「キッカケことば短文づくり」に取り組んだ。「作品例①」および「作品例②」（資料2）のように、「たとえば」と「つ

#### 資料1



## 資料 2

### 作品例①

うちの次男は、お風呂の時間になると、ダダをこねます。  
たとえば、「まだ遊び中」「これが終わったら入る」「テレビが  
終わっちゃう」と、いっこうに入ろうとしません。  
つまり、テレビや遊びが優先され、お風呂は彼の中で優先度  
が低いのです。

(平成 21 年度 県立保健福祉大 実践教育センター K・N さん)

### 作品例②

腎臓が悪くなった方は、健康な人と違って、さまざまな生活上  
の規制があります。

たとえば、塩分を少なくしたり、肉や魚などのタンパク質を  
とりすぎないようにしたり、激しい運動を控えたりします。

つまり、これらの規制は、残っている腎臓の働きを守るため  
の大事な手段なのです。

(H22 年度 愛知県 加茂看専 S・Y さん)

まり」を挿入して短文を構成し、認識を深める  
方法論を手に入れようというわけである。参加  
者の作品は回収しなかったのですが、ここで紹介で  
きないのが残念だが、できあがった作品は担当  
者が読み上げて、全員で鑑賞し、それぞれ拍手  
で敬意を表した。受講者の感想は表 2 参照。

### 【第 2 回】“表象（イメージ）”のチカラ

端的に言おう。あらゆる認識に〈表象〉の媒介は  
不可避である。その意味で、〈表象〉の表出方法は、  
古い時代からにじつに豊かに形成されてきた。第 2  
回はその代表ともいえるべき、「比喩」「絵図」「標識」  
「イメージ図」を取りあげた。

まず「比喩」から。某新聞の PR 広告欄に「沖縄  
料理」のみごとな比喩が見出しとして掲げられてい  
た。「沖縄で受け継がれてきたのは、まるで□□の  
ような食生活です」というもの。「□□」は、「薬  
膳」なのだが、この一文に触れるわたしたちの認識  
は、「薬膳」の喚起する「医食同源」のイメージに

支えられて、「沖縄で受け継がれてきた」「食生活」  
の認識をたやすくする。「比喩」という表現技法は  
このように、A を別の B に重ね合わせることによっ  
て、B の形状や特徴の表象を手がかりに、A の全容  
がより理解しやすくなるのだ。その認識論的効果が  
大きい故に、「比喩」は、詩や文学作品のみならず、  
認識を深めてもらいたいあらゆるシーンで、多く活  
用される。

「絵図」「標識」「イメージ図」も同様に、〈概念〉  
の表象として、認識を深める絶大のチカラを発揮す  
る。「絵図」では、伝統社会から今なお伝わる祈願  
としての「絵馬」をスライドで紹介。「標識」では、  
各種「交通標識」や「薬の適正使用協会」の作った  
「薬の標識」などを、〈概念〉との対比でみていった。  
「イメージ図」では、医薬品関係のテレビコマーシ  
ャルや広告が、レイアウトの位置をしっかりと確保し  
ていることに一同ガッテン。

総じてこの回は、「表象的認識」に訴える身近な  
例を動員して、「認識」における〈表象〉の媒介的

表 2 1 回目感想カードから

○とても分かりやすく楽しい講座ありがとうございました。認識の 3 つのレベルを統合することの大切さを強く感じました。また、「認識ののぼりおり」を実際に体験し、むずかしさと大切さを感じました。次回は勤務の都合で講座に出られないのが、とても、とても残念です。3 回目の講座に出席できるのを楽しみにしています。とても興味深い内容で、もっとたくさん聞きたいです。

○「認識論」というイメージは初め固い感じがしましたが、先生のお話は楽しいという友人のすすめがあり、申し込みました。その友人の言う通り、いやそれ以上に、楽しい時間が過ごせました。これから後 3 回、楽しみです。

○今回は、川崎市民であり、会場が近かったこともありますが、教育実習前にパワーをもらいにきました。私は落語が好きなのですが、先生の認識論も同じ趣があるように感じました。落語は同じ話でも聞く度に違うものを感じたりします。先生の講義も同じ内容だったとしても、違った感じがするのは、新ネタ（教材）を導入しているからですね。ありがとうございました。 など

要素が再確認できるよう進められた。なお、下の作品（資料3 共にS看護専門学校1年生）はレジュメに収められたもの。「看護師像」の表明に「比喻」と「絵図」を活用した例。受講者の感想は表3参照。

### 【第3回】 方法としてのコトワザ

愛すべきわが伝統社会の庶民は、学問的知とは異質の養分をわたしたちに残している。〈コトワザ〉の世界である。その一部が「二大いろはかるた」として結晶。「江戸いろは」「上方いろは」である。前者は「犬も歩けば棒にあたる」「論より証拠」「花より団子」と続く。後者は「一寸先は闇」「論語読みの論語知らず」「針の穴から天のぞく」と続く。これらのコトワザは、認識論的にいえば、抽象的概念的認識でもなく、かといって経験そのものでもない。つまりは、あまたの経験を束ねてひとつのイメージに収斂させた「表象的認識」の段階に位置づけるこ

とができる。

たとえば、「猿も木から落ちる」を例にとってみよう。「猿でさえも木から落ちる」というのは、あくまでも字面上の「表の意味」であって、その裏には「どんな名人でも失敗することがある」という意味（「裏の意味」）が隠れている。前代庶民の多くの「失敗」経験が、「猿も木から落ちる」という一言にみごとに集約されている、とみなしてよい。それも、ここが肝心ののだが、「どんな名人でも失敗することがある」という抽象的概念で残しているのではない。人間世界の共通した経験を「猿」に喩えて、「猿も木から落ちる」と表現しているのだ。そう、多くのばあい、コトワザは〈喩え〉なのだ。この認識表明の〈ワザ〉には、脱帽、敬服、リスペクト。しかも一説によると、伝承コトワザの数は5万にものぼるという。

セミナーでは、こうしたコトワザの相貌を、認識

表3 2回目感想カードから

○楽しくあっという間に過ぎた時間でした。「こころ」についての表象がとてもわかりやすく、じぶんなりにいろいろたとえてみたいと思いました。仕事で疲れた一日でしたが、気持ちが明るくなって疲れがとれた気分です。ありがとうございました。

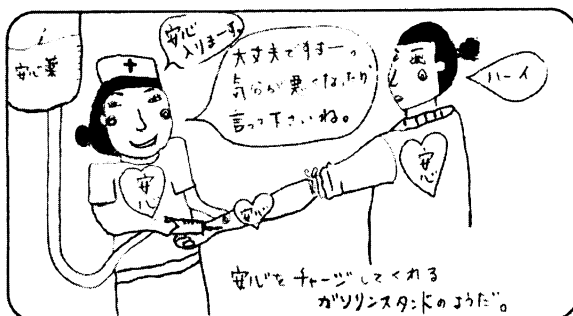
○想いは行為に現れる…比喻について鮮明に学びました。小学生の比喻のそのわけに心打たれ、感性が鈍い自分を感じさせられた。

絵馬について…表現の裏に認識あり。いろんな想いを素直に、そして、そのわけは？と絵を描くことで表現するのは素晴らしい。毎回の講義、興味深く参加しています。

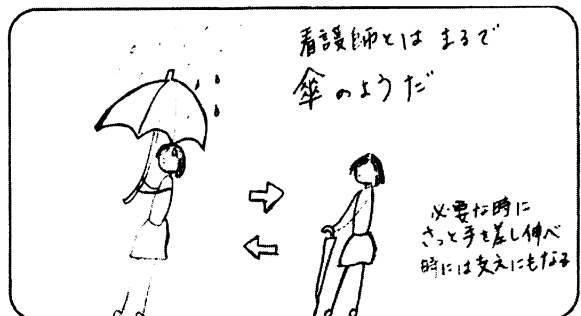
○勉強もイメージ化すると、もっと効率よく覚えられるなあと思いました。少しの心遣いで、よりよい看護になるのだと学びました。なので、このことを忘れず、実習でいかしていきたいです。私も自分の看護観をじっくり見直してみたいなと思います。楽しい授業ありがとうございました。 など

### 資料3

#### 作品①



#### 作品②



論的視点から再考した。(下は当日配布のレジュメから。資料4)

そして、小学2年生の「創作失敗コトワザ」、看護教員養成研修生の「創作看護コトワザ」、介護科学生の「創作介護コトワザ」をそれぞれ鑑賞し、参加者も「創作コトワザづくり」に挑戦した。その作品の幾つかを紹介する。受講者の感想は表4参照。

以上、3回にわたって、「認識発展の法則性」と、とくに「表象」の重要性について学んできた。受講者のみなさんは、一日の勤務が終わって本当なら家に直行したいほど疲れているのになお学びの場に自らを置こうとする方や、学びの時間を生活の一部にきっちり取り入れている方や、学生という立場を“夜間”まで延長する方など、いずれも旺盛な向学心と志気にあふれた方々ばかりであった。

担当者がこれに拮抗するには、周到的準備をして全力でみなさんの前に立つこと。加えて、「楽しい時間を過ごした」とトクした気分で家路について

いただくこと、であった。そしてその不足がもしあるとすれば、次回の「アイディア“グッズ”を作ろう」でおそらく解消されるにちがいない、とひそかに望みを託したのだった。

#### 【第4回】 アイディア“グッズ”を作ろう

アイディア グッズの構想を練る準備として、前回の講義時に資料5を配布し、各自で考えもらえるようにした。担当者にとっては、受講者のみなさんの頭の中を想像しながら、グッズを作成するための品物を準備するのは楽しい時間だった。

エミリンのアイディアのいろいろ(資料6)として例を示した。そして受講者のアイディア グッズは様々に及んだ。

①老人ホームに勤務する介護士?さん。面会に来て下さる家族へ→ 面会へようこそ。面会時、最初に向かう手洗いのところに感謝をこめたお花が満開の貼り絵。

表4 3回目感想カードから

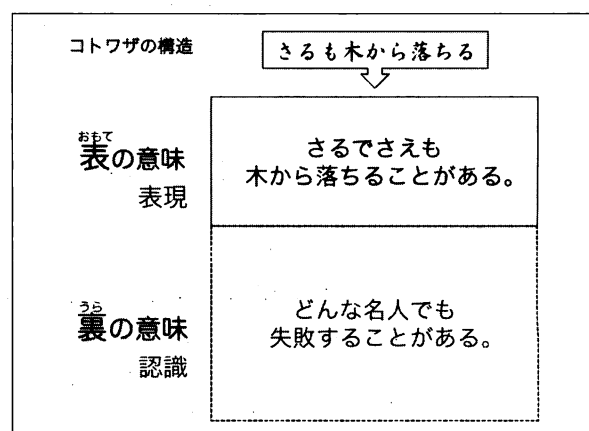
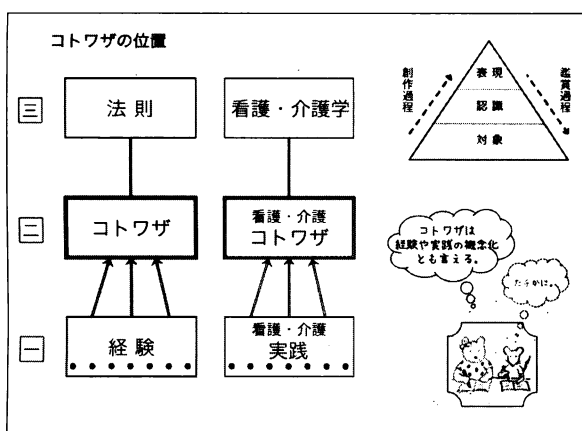
○とても楽しくて、まだまだ何度でも授業を受けたい思いでいっぱいです。先生の願いや教育観のようなものに少しふれられたように感じ、とても気持ちがあたたかくなりました。またいつか、先生の講義を受ける機会があるとうれしいです。

○はじめて本日参加しました。こども達の清らかなすなおな心にビックリです。自分が思いつくことはすべて日頃の業務に対して否定的なことばかりだったことに気づきました。もう少しポジティブに毎日を過ごさなければいけないと思いました。ありがとうございました。

○今日もたくさん笑うことができました。難しいものと勝手に思い込んでいたコトワザが、実は面白いものだとわかりました。創作コトワザは、職場に戻ってチームで仕事をしていく上で活用できそうです。認識論、まだまだ学びたいです。

など

資料4



資料 5

日頃から誰かに伝えたいことをグッズに托そう！

- | <伝えたい相手>      | <伝えたいこと>                   |
|---------------|----------------------------|
| ○ おばあちゃんに     | → いつまでも元気で居てね              |
| ○ 恋人に         | → 愛しているよ！                  |
| ○ 就職試験に落ちた弟に  | → 元気だせよ！                   |
| ○ お父さんに       | → タバコ止めたほういいよ！             |
| ○ 頑張っている友達に   | → いつも見ているよ。頑張っているのを知っているよ。 |
| ○ 受け持ちの患者◇さんに | → リハビリ頑張って！ でも焦らないでね。      |
| ○ 受け持ちの患者△さんに | → 糖尿病の食事療法頑張って！            |

資料 6

エミリンのアイディアのいろいろ<例>

**看護学生のエミちゃん**

腎臓が悪くて入院していた○君は小学校2年生の野球が大好きな男の子です。症状が治まっていますが、ベッドで安静にしなければなりません。凄く我慢して頑張っています。(エミちゃんの看護実習の受け持ち患者です)

腎臓の働きを工場に見立てて「紙芝居」を作成

- ↓
- ・ 腎臓が身体にとって大切なことを知って欲しい
  - ・ 腎臓を大切にして欲しい (自分自身を大切に)
  - ・ 頑張ってる○君、えらいね。

○君は「僕はベッドにねていなくちゃいけないんだよ。」と立派に安静を通し、病状も安定しています。

**看護教師のエミリン先生**

3年生の○男君が元気なさそうに腰掛けていました。話を聞くと「小児看護実習で腎炎のこどもを受け持ち、身体を拭くはずが、こどもが嫌がったので、そのままにしたら、看護師さんに凄く怒られてしまった。」とのこと。教科書的にデータは良く理解しているのに、府に落ちていないようです。

浮腫の「細胞ちゃん」の絵を描いて、子供にとっての清拭の重要性を話した。

- ↓
- ・ この子にとって清拭はとても重要だよ
  - ・ 看護師に相談もせず、そのまましたのはよくないなあ
  - ・ 元気だして、次に進もう！

「浮腫の細胞ちゃん」が元気を取り戻し、子供の新陳代謝を促進し、感染を予防するためにも清拭が重要！府に落ちた。明るい顔になる。

②小児病棟の看護師さん。視覚障害のある○○くんへ→ 手で触って感じて欲しい。柔らかいボールにいろいろな素材のものを付けて。

③助産師さん。夫を亡くした友人へ→ 励ましの絵手紙

④企業にお勤めの保健師？さん。心を病んで訪れる企業戦士のみなさんへ→ 受付に、透明の瓶にカラフルな色と色々な素材を入れて。癒しの瓶！

⑤老健施設の看護師さん。入所している認知症のお年寄りに→ 安心して眠れるように。蛍光塗料がついた看護師の夜間見守りの腕輪。

⑥看護師さん。頑張っている私に。→ きらきらと輝く王冠。

⑦教員。研究室を訪ねてきた人に。→ 不在です。ごめんなさい。また来てくださいね。(写真1) その他。様々な作品。

受講者は最初どう取り組んでよいか、戸惑いざみ

であったが、「伝えたいこと」が決まると、すぐさま作業に取り掛かっていた。出来上がった作品と「伝えたいこと」をそれぞれが発表した。発表者一人一人の心のこもったメッセージが心に響き、会場では感動の拍手が送られた。



写真1

表5 4回目感想カードから

○「アイディア グッズを作ろう」ととても楽しく参加することができました。表現する(想いや考え、伝えたい事)の大切さ、実感しました。参加されている方々や先生方に感謝です。ありがとうございました。

○久々に工作をしたという感じでしたが、いろんな思いで作られていて感動しました。皆さん本当に優しく一生けんめいなんだと身の引きしめる思いで終了したという感じです。明日からまた頑張ってます。ありがとうございます。

○グッズ作り。初めはどうしたらよいか迷いましたが、やがて夢中になっている私に出会いました。楽しかったです。

など

表6 セミナーの満足度

						n=15
項 目	大変そう思う	そう思う	どちらとも いえない	思わない	無回答	合計人数
ニーズに合っていた	8	5	1	0	1	15
知識が習得できた	9	5	0	0	1	15
スキルが習得できた	5	9	0	0	1	15
リラックスできた	10	5	0	0	0	15
これからに活かせる	8	6	0	0	0	15
						(人)

表7 セミナーの満足度に関するその他の意見や感想

	n=15
感想や意見	
とても楽しく勉強させていただきました	
先生がとても楽しかったです	
先生のパワーをもらうことができました	



表8 全体に対する感想

- 
- ・とても勉強になりました。
  - ・認識論なることばも始めて聞いた。
  - ・なるほど、なるほどの連続研修でもあり楽しい時間を過ごさせていただきました。  
ありがとうございました。
  - ・現役を離れた、ただのおばさんになってきている自分、学びの時間有意義でした。
  - ・あまりきどる事なく、セミナーを受けることができ、たぶん次回も夫婦で出席すると  
思いますのでよろしくお願いします
  - ・かた苦しくなくリラックスして参加でき、とても楽しく研修できました。ありがとうございました。
  - ・職場が南加瀬で看護短大にはとても近いので、今度は文化祭などで学校にお邪魔したいです。
  - ・今回、友人よりこの講義を知りました。近くですばらしい企画のあることを始めて知  
りました。
- 

### 3 終了後のアンケート結果

#### 1) セミナーの満足度

最終日出席者 15 名にアンケートを実施した結果、15 名の回答を得られた。(回答率 100%、有効回答率 100%) セミナーに対する満足度を①ニーズに合っていた、②知識が習得できた、③スキルが習得できた、④リラックスできた、⑤これからに活かせる、の 5 点について調査した結果は表 6 の通りであった。またその他の意見は表 7、全体に対する感想は表 8 の通りである。

## IV 考察

今回の「知って得するプチ認識論」講座は表 6 から分かるように、受講者にとって大変満足感の高い講座となっていた。本サテライトのコンセプトである①気軽に参加できる、②元気になれる、③刺激を受けあうと言う点においても毎回の感想や最後のアンケートによせられた感想からも達成できていると考えられる。「リラックスできた」という項目は 15 名中、全員がそう思うと答えており、更に感想で述べられていたように「認識論」という言葉も初めての人もありながら、楽しく新しい知識を吸収し、15 名中 14 名が知識やスキルが習得できたとしていた。更には「今後に生かせそう」という項目においては、全員がそう思うと答えており、目的は達成されたと考える。

講座は「アリ」に対する認識に始まり、「絵馬」、「広

告」、「標識」、「ことわざ」など日常の何気ない物や出来事に対する、自分の認識、他者の認識を知っていく過程の中で、豊かな時間を過ごすことができた。1～3 回を担当した植垣は元小学校の教諭であったことから、小学生の作品が沢山紹介された。子供たちの率直なところとあたまの出来事がそのまま、その作品に表れ、受講者のところを刺激した。受講者の「こども達の清らかなすなおな心にビックリです。自分が思いつくことはすべて日頃の業務に対して否定的なことばかりだったことに気づきました。もう少しポジティブに毎日を過ごさなければいけないと思いました。」という感想の文にも表れている。こういった子どもたちの純粋さが受講者だけでなく、企画者側の我々もまた元気にしてくれた。

毎回の受講者の作品の発表の中からも、その方の人となりを感じとることができたが、4 回目の「アイディア・グッズを作ろう」の演習においては、その方の認識の「のほりおり」日常の中で何を感じ(感覚的認識)、自作の作品の発表(表象的認識)からその方の本質(概念的認識)の一部を垣間見ることができた。ある受講者の感想の中の「皆さん本当に優しく、一生けんめいなんだと身の引きしまる思いで終了したという感じです。明日からまた頑張って働きます。」という、この文が本講座の目的である「気軽に参加でき、元気になれる、刺激を受けあうことができた」に達成できたことを表していると思う。本学のプログラムは、必要な知識やスキルを補強してだけでなく、企画側と受講者、あるいは受講者

間、また職域を超えた交流を通して、学びあえる環境を提供することであり、企画者にとってもこの上ない最高の賛美の言葉である。

## おわりに

「夜間サテライト」教育セミナーは、今回で4年目を迎えた。受講者の方々は大変熱心で学習への高い意欲や期待をもっており、年ごとにその思いを強く感じる。また、開講当初から企画側と受講者、あるいは受講者間、また職域を超えた交流を通して、

学びあえる環境を提供することをこの研修の目的としてきており、今回もそのような学びの環境を提供できたと思う。現代日本の大学の「社会貢献」は「単に社会のニーズに応えるのではなく、社会に必要とされるべき価値は何か」ということを創造していくことが重要である<sup>6)</sup>と言われているが、そのことをいつも心に留め、参加する一人ひとりが違ったゴールで自己の成長に繋がっていく研修を企画し続けていきたいと願っている。

## 引用文献

- 1) 蔵谷範子, 有田清子, 吉村恵美子他. 川崎市内医療施設で働く看護職員の学習ニーズ. 川崎市立看護短期大学紀要. Vol.13, no.1, 2008, p.63-68.
- 2) 吉村恵美子, 青柳美秀子, 蔵谷範子他. 地域の看護職に夜間看護セミナーを提供して 川崎市立看護短期大学の取り組み. 看護教育. Vol.49, no.9, 2008, p.848-850.
- 3) 吉村恵美子, 青柳美秀子, 蔵谷範子他. 看護職の生涯教育としての「夜間サテライト」看護セミナーの試みと効果. 川崎市立看護短期大学紀要. Vol.14, no.1, 2009, p.103-108.
- 4) 吉村恵美子. 職場の人間関係を柔らかにするための論理療法による「セルフ・カウンセリング」の効果 - 夜間サテライト教育・セミナーでの試み -. 川崎市立看護短期大学紀要. Vol.16, no.1, 2011, p.129-138.
- 5) 庄司和晃. 認識の三段階連関理論 (増補版). 季節社, 2006.
- 6) 五島敦子他. アメリカの大学の社会貢献理念 定義と歴史的変遷の検討. 南山短期大学紀要. no.34, 2006, p.123-139.